

第1回 勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 結果概要

開催日時：平成27年5月18日（月）

午前10時～午前12時

開催場所：勝山市役所3階 第1会議室

出席者：委員10名

事務局：企画財政部未来創造課

1. 市長あいさつ

人口減少による活力の衰退を食い止めなければならず、これまでの国の完全主導型ではなく、地方がそれぞれの特性に応じた戦略を練り、実施する体制を作ろうということで、各市町村で戦略会議を立ち上げている。委員の皆様から知恵をいただき、良いものにしていきたいと考えている。「地方はこれまで何もしてこなかった」、「国の補助事業や交付金に頼っている」ということではなく、これまでも自分の地域をどのようにして持続可能な発展をさせていこうか考え、取り組んできた。

国も危機感を共有しており、国が主導するだけでは解決できないという観点に立って地方創生を進めていることは評価できる。市としては、市民と対話をしながら施策を推進し、地方をいかに甦生させるか、地域を発展させるかについて日々考え、取り組んでいる。

勝山市においても10年ごとに総合計画を策定している（現計画は平成23年3月に策定）。かつては業者への丸投げによって、どの市町村も同じような計画ができていたが、今は決してそのようなことはない。政策を基に策定したものであり、まち・ひと・しごと創生に活かすことができるエッセンスが入っている。総合計画策定から5年が過ぎようとしており、社会変化が目まぐるしく地方創生が注目される中、再度見直すという意味を込めて、新たな施策を展開していくことは意義のあることであると考えている。そのようなことを積極的に捉え、産官学金労言、地域のすべての力を結集して計画を作り上げていきたい。本日は、皆様にそれぞれの代表としてお集まりいただいたので、我々の考えた提案にご意見をいただき、また新しいご提案を皆様からいただき、意義のあるものに作り上げて、次世代に勝山市が残るようにしていきたい。増田元総務大臣が言っていたような地方が消滅するということがあり得ないというような施策の展開をもって、持続可能な勝山市にしていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

○勝山市長

それでは、議題の2～5について、事務局より一括して説明をさせていただく。

2. 地方創生総合戦略概要について

○事務局

地方創生総合戦略概要について説明

日本の人口は平成20年から初めて減少に向かっている。若者が減り、高齢者が増えていることが日本全体の課題であるということで、昨年度末、国がまち・ひと・しごと創生長期ビジョンを策定した。

[資料により説明]

基本目標は、①地方における安定した雇用を創出する ②地方への新しいひとの流れをつくる ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域が連携する が掲げられており、勝山市としても、①～④を基に施策を考えていきたい。

国の「2060年に1億人の人口を確保する」という考え方にに基づき、地方においても2060年までを基本とした人口ビジョンを作り、どういった人口推移になるのかを見たうえで、基本的な考え方を導き出して、地方版総合戦略を策定していきたいと考えている。

「地方人口ビジョン」・「地方版総合戦略」の意義について説明

まず人口がどのように変化していくのか現状分析したうえで、基本的な考え方を導き出して地方版総合戦略につなげていく。基本目標やそれに合わせた様々な施策、重要業績評価(数値目標)を入れ、5年間のPDCAサイクルの中で効果を検証していく。人口ビジョンについて、国は2060年までの人口ビジョンを立てており、各市町においても2060年までのビジョンを立てた上で、今後目指すべき将来の方向性、人口の将来展望を描いていく。

人口動態の分析としては、老年人口(65歳以上)・生産年齢人口(15～64歳)・年少人口(0～14歳)の社会構造や、人口が増減する要因である自然動態、社会動態などの現状を把握し、分析をしていく。現在、勝山市の人口ビジョンについては、現状分析まで概ね作成したところである。

勝山市の人口推計について説明

平成22年、直近の国勢調査の数値からスタートしている。国立社会保障・人口問題研究所が過去の国勢調査等の数値を用いて、全市町の人口シミュレーションを作成している。

[シミュレーションのパターン1～4について説明]

パターン1 現状のまま、何もせずに人口減少が進んだ場合の2060年までの人口推計

- パターン2 国が掲げた出生率の目標（平成37年に1.80、平成42年から2.10を維持）を達成できた場合の2060年までの人口推計
- パターン3 勝山市の最新の出生率1.53を2060年まで維持し、社会動態（転入・転出が±0）であると仮定した場合の2060年までの人口推計
- パターン4 国が掲げた出生率の目標（平成37年に1.80、平成42年から2.10を維持）を達成し、社会動態が±0であると仮定した場合の2060年までの人口推計

3. 第5次勝山市総合計画概要について

○事務局

勝山市の施策の根幹となる計画であるが、5年前の計画策定の段階から、人口減少は避けて通れない問題であるという考えのもと策定を進めた。平成23年から平成32年までの計画であり、10年後の人口シミュレーションを推計している。

総合計画の中では、平成32年の時点で、人口が22,254人であると推計しているが、この人口を750人上回る23,000人になると想定し、様々な施策を盛り込んでいる。勝山市は何も取り組んでこなかったわけではなく、人口減少問題を見据えた政策を推進しているところである。

4. 勝山市の考え方、策定の流れについて

○事務局

先ほどのシミュレーションからも人口が減少していくことは明らかであるが、人口減少を止める、緩やかにするためには、出生率を上昇させ、将来の人口構造を変えることが必要である。若い人が少なく、高齢者が膨らんでいる人口構造そのものを変えていくこと及び転出者を減らし、転入者を増やすことを考えていくことが必要である。

子供を産んでもらうために若い世代に雇用を創出することや、子育てしやすい環境、十分な教育を受けられる環境づくりを支援し、PRしていく。生活基盤の整備も必要となる。若い世代はもちろんのこと、勝山市は高齢化率が30%を超えているため、健康に長生きしてもらうという意味で健康寿命を延伸していく施策も必要である。

第5次総合計画がベースとなり、総合計画の基本目標に沿って総合戦略の策定にあたり、そのまま使用できる項目、内容を強化して使用できる項目等があり、新しい施策を組み入れながら項目の抽出を進めていきたい。

幅広い意見の聴取の実施ということで、①市民アンケート ②勝山市まち・ひ

と・しごと創生総合戦略会議 ③若者・女性の意見聴取 等を進めていきたいと考えている。

○勝山市長

これまでの説明について、ご質問・ご意見のある方は発言をお願いしたい。

●委員

出生率という話から始まっているが、日本では結婚してから子供を産むという風潮が浸透しているため、出生率を上げるためには結婚に対する支援が必要ではないか。

○事務局

市としては、結婚相談員を配置し、定例的に結婚相談を受け付けている。相談件数の実績も上がっており、実際に結婚に至った事例もある。また、婚活イベントとして、独身男女がリムジンに乗って出かけてパーティをしたり、女性が実際にウェディングドレスを着て結婚式の雰囲気醸し出すイベントなどを実施している。婚活イベントについては、今後も拡充して進めていきたい。

●委員

子供を産むのは女性なので、男性ばかりが集まって話をするより、若い女性の集まりの方が良いのではないか。

○事務局

本会議では女性の委員が深谷委員だけであるが、他の集まりや団体からの意見聴取、高校生等の意見も聞きたいと考えている。その中で、女性の意見交換ができる場を設けたいと考えている。

●委員

子育て支援で気になっているのが、第3子からが優遇されていることである。第1子から優遇することはできないか。

○事務局

勝山市の子育て支援に関する説明 [資料により説明]

子育て支援日本一を目指して、様々な子育て支援策を展開している。保育料については国が基準を設けており、一番所得の高い基準だと月5万5千円となっているが、勝山市は国の徴収基準の約5割5分ほどしかいただいていない状況であり、保育料の軽減率は県内トップクラスとなっている。残りの4割5分の保育料は市の一般財源で補填をしており、見えにくいところで支援をしているといった状況である。

出生率2.10を目指す上で、特に第2子への支援策を考えていく必要があると思う。

○勝山市長

今後のスケジュールについて事務局より説明させていただく。

5. 今後のスケジュールについて

○事務局

8月には素案を作成し、9月議会で素案を諮り、最終案は12月議会で報告をしたいと考えている。その間に、パブリックコメント等を実施し、意見を幅広く聴取したい。

○勝山市長

スケジュールを含め、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

●委員

まち・ひと・しごと創生総合戦略はすべての市町村が作成し、福井県も作成すると思うが、県の施策と勝山市独自の施策との関係など、県の戦略との整合性はどのように考えているのか。

○事務局

12月に閣議決定された直後の説明では、地方版総合戦略は必ずしも国・県の戦略と整合がとれていなくても良い、独自のものとするかとされていたが、現在は国・県の戦略と整合させる方向に向かっているようである。県の戦略の中身が示されていない現状ではあるが、県と情報共有を図りながら県と整合させるべき部分について検討を進めてまいりたい。

●委員

勝山市独自の個性のある戦略にできれば良いが、財源の問題もあるので県や国の財源を使い、実施できると良いと思う。

●委員

3月まで厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所で、将来推計や少子化対策関連の仕事をしていた。現在、県の戦略会議のメンバーとして出席している。機会があれば、県へも情報等を伝える。国の全体の動きに関しても何かお手伝いできることがあればさせていただく。

今回の創生戦略の柱は、少子化対策と雇用、人口転出をいかに抑えるか、ということだと思う。少子化対策については、福井県はとても手厚いが、雇用や転出対策については、少し弱いように感じる。これを機に、そういった部分を考えていくのはとても良いことだと思う。

○勝山市長

雇用については、勝山市も努力をしているが、県全体で今後、産業政策について考えていく必要があると思う。高速交通網が普及し、北陸新幹線や中部縦貫自動車道が貫通し、さらにリニア新幹線が名古屋まで開通すると、中部縦貫自動車

道とリニア新幹線の組み合わせにより、東京へのアクセスも良くなる。そうなる
と、産業の立地構造も大きく変わり、東京圏集中の企業が分散を始めるのではな
いか。〇〇年には××がある、××が開通するなど、時間軸で出来事を入れ込ん
でおくと良い。地方それぞれの環境が変わっていくため、それに合わせた政策等
が必要になる。

●委員

総合戦略策定の流れの中で、ビッグデータの活用が非常に有効であると思う。
今の産業構造が今後どのように変わっていくかということは重要な項目である。
地方の特性を活かした産業の育成としては、恐竜や六次産業などがベースとして
あったうえで、産業が雇用につながっていく。それに加え、勝山市の場合は繊維
も非常に良い素材であり、今までにない繊維関係の連携やビジネスモデルの構築
を全国的に発信していけたら良いと考えている。データの活用状況があれば教え
ていただきたい。

○事務局

ビッグデータの活用については、現在、地域経済分析システムが閲覧できる状
況になったばかりであり、活用について明日、研修会がある。活用について習得
し、総合戦略策定に活かしていきたいと考えている。

○副市長

出生率と雇用が大切ということで、現状を説明させていただく。勝山市では、
様々な企業優遇制度を実施しているが、近年は地場産業に対する助成が多くなっ
ている。繊維関係については、繊維産業という看板だが、中身は衣料や自動車関
連の産業であることもある。

企業に対する助成の要件として、「新規雇用者〇人以上」という要件があるが、
それに対しても、ハードルが高いという意見が聞かれる。企業への助成を行って
も、現状維持をすることに精一杯であり、雇用が増えていかない。そのような中
でも、勝山市における従来の工業振興助成金制度や三次産業において幅を広げて
いき、労働競争力を高めていきたい。仕組みを変えていくことを事務局が検討し
ているところである。

出生率については、いかにとどめるかということを考えていきたい。子育て支
援策の中にも、県内1、2位を争う独自の施策が多くあり、第3子以降の現金支
給なども議論の対象になっていくと思う。

●委員

勝山市の子育て支援策は充実しているが、当たり前だと思われがちなのではな
いか。保育料が安いことを市民はどれくらい知っているのか。周辺の県、市町と
比較して初めて分かることなので、現状でどれくらい有利かということをも
市民に周知すべきだと思う。

○勝山市長

他との比較がないと更なる軽減を求めるばかりになってしまう。勝山に移住してきた方が、勝山市の子育て支援策に驚くようである。また、放課後の児童預かりが無料というのは、他ではないことだが、勝山市に住んでいる人はそれが当然だと思ってしまう。ご指摘いただいた通り、持っている宝を知っていただくことも大切である。

繊維については、昔から伝統的に根付いてきた産業であり、近年では衣料でも先進的な研究が進んでいる。もう一度脚光を浴びるのではないかと思う。繊維の可能性と面白さを知れば、新しい企業の参入や、繊維と関係がなかった人による起業も出てくるかもしれない。企業誘致については、一時代前の数百人、数千人が来るものとは異なり、交通網が発達すれば、あり方も変わってくると思う。地場で産業を興すということで、都会で成功した地方出身者が帰ってくることがベストだが、帰ってこない場合でも、支店などを勝山に置いて事業を展開し、うまくいけば定着につながる。「勝山市は暮らしやすい、食べ物がおいしい、子育て支援がしっかりしている、環境が良い、景観が良い、英語教育や環境教育が進んでいる」など、いま進めている良いことを捉えて継続していけば、勝山の良さに気が付く人が次世代に増えてくると思う。今の取り組みをあきらめることなく、地道に継続していきたい。

●委員

ハローワークが連携できるものとしては、働きながら子育てをする女性への支援やUターン・Iターンがあり、その観点からお話させていただく。働く女性への支援ということで、たくさんある求人に対し、今まで家庭に入っていた方を含め女性に対してアピールをしながら進めた。保育園等も回ったが結果はだめだった。勝山市は、子育て支援や保育が充実しているため、既に助成の就業率は高いことが要因だと思われる。そこをもう一步進めるということで、本会議の中で対策を練ることが大切だと思う。市長の話にあったように、地方はやってこなかったのではなく、やってきた。ハローワークも連携をとって取り組んできたが、さらに良い知恵を出し合うことが必要であると感じる。Uターン関係については、ハローワーク管内（大野市・勝山市）で毎年約500人が高校を卒業する。勝山市だと約200人が卒業し、うち就職が20%であり、約40人程度である。そのうち地元就職をするのが20～30人といった状況となっている。卒業する200人のうち、150～160人ほどが進学しているが、地元の大学や専門学校に進学する学生は少なく、進学先としては県外が多くなっている。県外に進学した学生のうち、どれくらいのUターンがあるのか、県外進学者のUターン率をいかに向上させるか、県外で就職したとしても20代・30代でいかに戻すかということを考えていく必要がある。受け入れる企業も大切になってくる。引き続き、連

携しながら検討していきたい。

●委員

福井県では年間約3,000人が県外に出て行き、そのうちUターンは4分の1程度である。勝山市にも繊維産業や資材関係など、非常に優れた製品を作っている魅力ある会社がたくさんある。その魅力ある会社を地元の中学生等に周知する活動に取り組んでいると思うが、子育て支援策の認知がされていないという話があったのと同様に、産業面においても市民への認知が薄いのではないか。魅力的な観光地や地場産業があるので、地元の人々の誇りを高めるなどが重要になるのではないか。

先ほど、繊維産業の横の連携について話があったが、既に始まっている部分があり、1つの一大集積地、産地という認識を定着させようという努力もあり、観光産業にも力を入れている。しかし、勝山市の地場産業は繊維が主だったため、おもてなしの文化が根付いていないと実感する。それをどのようにして根付かせていくのかということに関して、市の力も発揮し、商工振興課とも連携しながら進めていかなければならない部分もあるのではないかと思う。地域金融機関として、地場の発展に貢献するという観点から取り組んでいきたいと考えている。

●委員

地域の経済循環という話があったが、循環して初めて地域が存続する。循環がうまくいっていないというイメージは何となく分かっていると思うが、実際に数値で見てとれると良い。生産、分配、支出がどのように回っているのかを知ると、勝山のことをよく知ることができると思う。産業の企業数や就業移入人口が浮かび上がり、そこからどのようにしていくのかというアウトラインが見えてくると思う。

子育て支援策が手厚いが、支出の面から見ると支援策によって浮いた資金を市外で使っては意味がない。企業誘致によって、大企業を誘致できたとすると、給与の支払いによって分配はあるが、利益は企業の方にいく。頑張っているにもかかわらず伸びない原因が目で見えるようになればおもしろいと思う。

○勝山市長

そのあたりをクリアにすると目標や取り組むべきことが見えてくる。

●委員

地方は暮らしやすさが一番である。都会は企業も多く様々な仕事ができるし、平均賃金も高いことから若者は都会に魅力を感じやすいと思う。しかし、地方は物価が安く、持ち家率が高く、子育て支援も充実しているため、もらっている給与が低いから貯金ができないかということ、そうでもない。そういった面から見ても、地方の暮らしやすさは一番だと思う。県外で就職した方の話では、給料は高いが、支出も多いようである。実際にUターンし、給料は下がることもあるが、

親との同居により衣食住の心配がないことや、昔からの友人もいることが地方の魅力であり暮らしやすさでもあると聞いた。

○勝山市長

地方のメリットを活かしていきたい。

○副市長

委員より話のあった消費の話など、必要なデータを次回までに準備させていただく。ただし、勝山市の若者が勝山に住所をおいて、福井で賃金を稼いでいるケースもある。労働力のうち、どれくらいの人が市外で勤務しているか等、必要なデータを準備したい。

○事務局

国から提供されているデータの中身についてはまだ把握できていないが、必要なデータについては準備を進めたい。

●委員

市民に触れる機会が多いが、勝山市の特徴としては、恐竜博物館が秀でていると思う。県内でも、これだけの人を集められる施設はないのではないかなと思う。年間70万人が訪れているし、県では年間100万人を目指すと言っている。先ほど新しい雇用、産業という話が出ていたが、観光という分野で産業を作っていくのも良い流れではないか。観光でどのように儲けるのかということだが、あれほどのお客さんが来ているのだから、お金を落としてもらう、というのが一般的な考え方だと思う。外からのお金を勝山で落としてもらうことで、地元企業がお土産をもっとつくる動きや、体験・自然ツアーが企画されるなど、観光客にお金を落としてもらうような産業が生まれるのではないかな。県内でも恐竜博物館、平泉寺は主客率が高いと思うので、そこで産業や景気循環について考えていければ良いのではないかな。

○勝山市長

恐竜博物館は最大のチャンスであると思う。勝山市が独自で100万人集めるのは困難だが、スキージャム勝山を含めると100万人も実現すると思う。スキージャム勝山は、他の観光地と比較すると、冬以外のシーズンにいかに取り組み、ビジネスにするかが重要である。勝山の人は大きな観光施策についてやや苦手意識を持っており、大きな外部資本の投資に頼るだけでなく、自分たちが主体的にどのようなことができるかということに対する覚悟と決意の後押しのようなものが必要かもしれない。それを打破するために、自分たちが作ったものが売れるマーケットを展開する仕組みができるとよい。市民の総意はそこにあり、農業の六次産業化もできると思う。各地域で様々なものを作っているが、それを販売するマーケットがないため、自分たちで運営できるマーケットがあると良い。

また、まちなかの魅力を創出し、まちなかへの誘客も進めている。勝山市には

古い建物が残っており、風情もある。日常的に人が散策している姿が見られるようにしたい。

勝山市民が苦勞しているものとして雪があるが、除雪は県下であると自負している。大きな道路については速やかな除雪を実施し、まちなかの細い道路には融雪を設置し、子どもが通学できるように歩道の除雪も進めている。景観や除雪は日本一だと思っているし、まちなかの整備について、今後とも進めていきたいと考えている。

○副市長

観光産業について、現状を含め報告させていただく。多くの観光客が訪れているが、勝山市の経済に直接つながっているかということ、仕組みづくりがうまくいっていない。将来的にはまちづくり会社を設立し、勝山市でお金が落ちる仕組みを考えていきたい。

恐竜博物館のミュージアムショップは年間3億円の売り上げがあるが、それで雇用が増えているかということが増えていない。わずかな税金しか入らず、勝山の経済としては循環がうまくいっていない。休日には行列ができるが、平日はそこまでの混雑がないため、設備投資は増やさない。長尾山総合公園にもたくさんのお客さんに来てもらっているが、勝山市としても様々な投資をしている。公園の維持管理をしていくためには、しっかりとした仕組みづくりが必要であるということで、今年オープンしたディノパークでは、無償で使っていただく代わりに売上の10%を勝山市へという条例をつくるなど、仕組みづくりを進めている。それを公園の維持管理に還元して利用者の満足度を高めていく。

●委員

先ほど、何も手を打たなかった場合の人口推計が出ていたが、第5次総合計画の中で謳われた施策が実施された場合、人口推計の数値は増えるのか。総合計画で謳われた内容以上のことが必要であれば、雇用面においても考えていかなければならないし、起爆剤になるようなものが必要になってくる。

暮らしやすさや子育て支援については、他の市町も行っていることなので、それ以上のものが必要になってくるのではないか。例えば、中部縦貫自動車道が全面開通した頃に合わせて、企業誘致をして雇用の創出に当たるなどの考えも必要ではないか。

○勝山市長

中部縦貫自動車道が開通したことが1つのメリットとなり、企業誘致をするのではなく、同じようなケースが他の市町でも起こると思うので、その地域にどれだけの魅力があるのかを売り出すことが必要になってくる。人、まち、環境、教育がすべて良いという勝山の特質に磨きをかければ、必ず選択される場所になると思う。

●委員

勝山市の経済循環の仕組みづくりの話があったが、グローバル化が進む現在、勝山市の観光業において、外国人観光客への対応や位置づけはどのようになっているのか。

○副市長

市内宿泊施設の中には、インバウンドが進んでいるところもある。県も1泊2,000円の補助をつけており、旅行会社が活用している例もある。中国人の雇用を進めているケースもあり、対応は進んできている。

●委員

タイの人に聞くと、東尋坊や越前海岸よりも印象に残ったのが恐竜博物館だという話を聞く。外国人の話を聞くと、YouTubeをよく閲覧するようなので、WebだけでなくYouTubeで配信すると多くの人が目にするのではないのか。

○副市長

雪にも感動するという話を聞く。これからのインバウンドにも力を入れていきたい。

○勝山市長

年間100万人近い客の中に外国人が増えていくのであれば、インバウンドへの施策も必要になってくるが、勝山市民が対応できる仕組みを作っていく必要がある。勝山市はジオパークに認定されているが、ジオサイトの説明等に英語と中国語の対応をすることが必要である。

文部科学省が認定した英語教育強化地域になっていることから、子どもの英語教育に力を入れており、先進的に英語教育を実施する体制を組んでいる。子どもたちだけでなく、大人も外国人観光客に接し、おもてなしができるように、今後力を入れていかなければならないと思う。

福井県の産業政策をきちんとして、そこで働き、習得した技術を発揮できる教育を県立大学としても実施して欲しい。昔は繊維工学があり、勝山で繊維がやりたいという人に道筋のようなものがあり、将来につながっていたが、今は学んだことが活かされないことも多いため、県の産業政策と一致させて欲しい。県の工業技術センターは、福井県が取り組んでいる産業に対する研究機関を持っており、うまくいっている。しかし、その下にある大学教育と結びついていない。学生たちの意欲と将来やりたい産業とがつながるよう、学校教育としっかり連動させていただきたい。県立大学を卒業した県外学生のうち福井県で就職する人が少ないため、大学教育にも力を入れていただきたい。

○副市長

勝山市は高齢化率が非常に高く、年金受給者が約9,000人と社会保障の負

担が増大しており、消費に対し守りの姿勢に入っているのが特性でもある。総合戦略の5ヶ年のうちにも、高齢化率が上昇していくことが予測されるため、今後とも考えていく必要がある。

○勝山市長

健康寿命をのばすような施策も大切になる。

●委員

5年でどういったことができるか、ということを整理していくことが必要である。

●委員

人口を維持するためには、出生率を上げる必要があり、子どもを産んでもらうこと、健康に長生きしてもらうこと、転入してもらうこと等の観点が重要だと思う。勝山市に入ってきてもらおうとすると、他市町も様々な施策を実施している中で、人の取り合いになる。今後はテーマをいくつかに分けて話を進め、整理していく必要がある。

子育てについて、「日本で一番結婚したいのは勝山市の男性です」という題目を付けるのはどうか。小学校から教育を実施し、女性が喜ぶ内容の検定を実施し、良い成績を修めていることをアピールすること等で、女性を取り込むことができるのではないか。

○勝山市長

年は知らないうちにとってしまう。今は結婚に適齢期はないが、結婚する頃には子供が産みにくくなるというケースも出てくるかもしれない。出生率2.10を達成するためには、30歳までに結婚するという教育も必要かもしれない。

●委員

女性に30歳までに結婚して出産を、というと、男性のハードルも上がり、そのような相手はどこにいるのか、という話になる。女性が考える理想の男性はどのような人か、ということを考える必要もあるのではないか。

○勝山市長

子どもたちに対して良い教育を実施し、良いまちを作りたい。そして、近所に良い人がいて、良い思い出が生まれるまちの中で子どもたちを育てたいと考えている。県外で活躍していて、すぐには連れて帰ってこられなくても、心には勝山市のことがあったり、定年が近くなったら子どもを連れて帰って来ることあるかもしれないし、その子どもが両親のふるさとを好きになるかもしれない。子どもたちが都会ではなく勝山に住むことにつながるかもしれない。いつか帰ってきたくなるようなまち、良いまちを継続していかにつけていくか、というベースを作っていきたい。

以上